

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-133750

(P2007-133750A)

(43) 公開日 平成19年5月31日(2007.5.31)

(51) Int. Cl. F I テーマコード (参考)
G06F 3/048 (2006.01) G06F 3/048 658B 5E501
 G06F 3/048 658A

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2005-327569 (P2005-327569)
 (22) 出願日 平成17年11月11日(2005.11.11)

(71) 出願人 000001007
 キヤノン株式会社
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 (74) 代理人 100090538
 弁理士 西山 恵三
 (74) 代理人 100096965
 弁理士 内尾 裕一
 (72) 発明者 近江 裕美
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤ
 ノン株式会社内
 (72) 発明者 山田 雅章
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤ
 ノン株式会社内

最終頁に続く

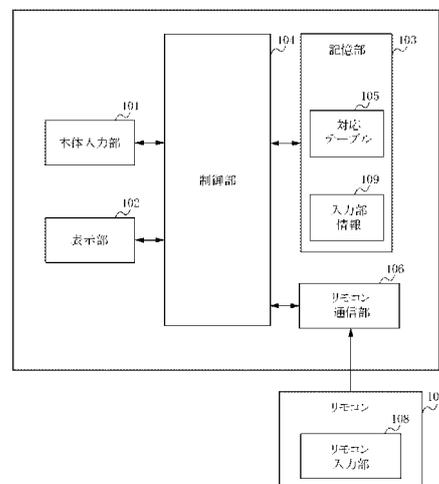
(54) 【発明の名称】 情報処理方法及び情報処理装置

(57) 【要約】

【課題】 表示画面をもつ情報処理装置において、画面上のフォーカス移動可能項目に、その項目にフォーカスを移動させるために用いる入力部の情報（画像や色等）を併せて提示することにより、ユーザの操作性を向上させることを目的とする。

【解決手段】 複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択し、選択された項目に関連付けられた前記入力部と前記項目とを対応付ける対応情報に基づいて、前記各項目に対応する入力部を表す入力部情報を、対応する項目と対応付けて表示する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択する選択工程と、

前記選択工程で選択された項目に関連付けられた前記入力部と前記項目とを対応付ける対応情報に基づいて、各項目に対応する入力部を表す入力部情報を、対応する項目と対応付けて表示するよう制御する表示制御工程とを備えたことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 2】

複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択する選択工程と、

前記選択工程によりある項目が選択された状態で、前記各入力部に対応する情報を受信した場合に選択される項目に、該入力部を表す入力部情報を対応付けて表示するよう制御する表示制御工程とを備えたことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 3】

前記選択工程は、項目にフォーカスを合わせることで項目を選択することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法。

【請求項 4】

前記選択工程は、複数の項目のうちの一つを他と異なる表示にすることで選択することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法。

【請求項 5】

前記表示制御工程は、前記入力部情報を前記項目に重ねて表示することで対応付けて表示することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法。

【請求項 6】

前記表示制御工程は、前記入力部情報を前記項目の枠線で表示することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法。

【請求項 7】

前記入力部情報は、少なくとも入力部を表す画像もしくは入力部を表す色であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法。

【請求項 8】

前記表示制御工程は、前記複数の項目と前記選択工程で選択された項目との距離に応じて、前記複数の項目に対応する入力部を表す入力部情報を表示するよう制御することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法。

【請求項 9】

請求項 1 又は 2 に記載の情報処理方法をコンピュータに実行させるための制御プログラム。

【請求項 10】

複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択する選択手段と、

前記選択手段で選択された項目に関連付けられた前記入力部と前記項目とを対応付ける対応情報に基づいて、前記各項目に対応する入力部を表す入力部情報を、対応する項目と対応付けて表示するよう制御する表示制御手段とを備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 11】

複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択する選択手段と、

前記選択手段によりある項目が選択された状態で、前記各入力部に対応する情報を受信した場合に選択される項目に、該入力部を表す入力部情報を対応付けて表示するよう制御する表示制御手段とを備えたことを特徴とする情報処理装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

10

20

30

40

50

【0001】

本発明は、表示画面に情報を表示する情報処理装置における操作支援技術に関する。

【背景技術】

【0002】

テレビやプロジェクタ等、ディスプレイに表示された画面の操作はリモコンを用いて行うことが多く、こういった機器において画面上のフォーカスを移動させる場合、リモコンの十字(上下左右)キーやスティックデバイス等を用いる例が多く見られる。

【0003】

しかしながら、画面の構成は多種多様であり、リモコンのデバイスが指し示す方向(例えば「右」キーであれば右方向)と画面上のフォーカス移動方向が必ずしも一致しているとは限らない。そのため、リモコンのどのキーを押せばフォーカスがどこに移動するか、ユーザにとってわかりにくいという課題がある。

10

【0004】

リモコンにおける画面操作を支援する方法として、例えば、各項目からフォーカス移動可能な項目を矢印等で表示する方法(特許文献1)が開示されている。また更に、カーソルが移動可能な方向を強調し、所定の操作により「上下左右」キー等による移動場所を矢印で表示する方法(特許文献2)も開示されている。

【特許文献1】特開2002-149144号公報

【特許文献2】特開2002-305696号公報

【発明の開示】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献1および特許文献2で開示されたような技術により、フォーカス移動可能な項目や、現在のフォーカス位置からどの方向に移動可能かを直感的に把握することが容易になった。しかしながら、リモコンのデバイスが指し示す方向と画面上のフォーカス移動方向が一致していない場合は、リモコンのどのキーを押せばフォーカスがどこに移動するか、依然としてユーザにとってはわかりにくい。例えば、「上」キーを押しても真上に項目がなく、斜め上に配置された項目の中で1番近いものにフォーカス移動するような場合がある。このような場合は、現在のフォーカス位置に「上矢印」を表示しても、どこにフォーカスが移動するのか直感的には把握できない。

30

【0006】

本発明は、このような事情を鑑みてなされたものであり、画面上のフォーカス移動可能な項目に、その項目にフォーカスを移動させるために用いる入力部情報(キーの画像や色等)を併せて提示することにより、ユーザの操作性を向上させることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するために、本発明にかかる情報処理方法は、複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択する選択工程と、前記選択工程で選択された項目に関連付けられた前記入力部と前記項目とを対応付ける対応情報に基づいて、前記各項目に対応する入力部を表す入力部情報を、対応する項目と対応付けて表示するよう制御する表示制御工程とを備えたことを特徴とする。

40

【0008】

また、本発明にかかる情報処理方法は複数の入力部を有する入力手段からの情報に応じて、画面上に表示された複数の項目のうちの一つを選択する選択工程と、前記選択工程によりある項目が選択された状態で、前記各入力部に対応する情報を受信した場合に選択される項目に、該入力部を表す入力部情報を対応付けて表示するよう制御する表示制御工程とを備えたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

本発明により、ユーザが所望の項目にフォーカス移動させるためにはどう操作すればよ

50

いか直感的にわかるようになるので、操作性を向上させることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、図面を参照しながら本発明の好適な実施例について説明していく。

【実施例1】

【0011】

図1は、本発明の実施例1における情報処理装置の基本構成を示す図である。情報処理装置は、本体入力部101、表示部102、記憶部103、制御部104、対応テーブル105、リモコン通信部106から構成される。本情報処理装置はリモコン107と通信をおこなう。

10

【0012】

本体入力部101はボタン群やタッチパネル等の入力装置から構成され、各種の指示を本装置に入力するための入力インタフェースとして機能する。

【0013】

表示部102は液晶ディスプレイ等の表示装置から構成され、画像や文字等により構成される各種の情報を表示する。なお、表示部102としてタッチパネル式の表示装置を用いてもよく、その場合、表示部102は本体入力部101としての機能(各種の指示を本装置に入力する機能)をも有することになる。

【0014】

記憶部103は、各種の情報を保存するためのハードディスクドライブ装置や、情報処理システムに各種の情報を提供するためのCD-ROMやDVD-ROM等の記憶媒体等により構成されている。記憶部103には、各種のアプリケーションプログラム、ユーザ・インタフェース制御プログラム、そして各プログラムを実行する際に必要な各種のデータ等が記憶されており、これらは後段の制御部104の制御により、本装置に読み込まれる。

20

【0015】

制御部104はワークメモリやCPU、MPU等により構成されており、記憶部103に記憶されたプログラムやデータを読み出して各種の処理を実行する。

【0016】

対応テーブル105は、表示部102に表示されるフォーカス移動可能な項目とリモコン入力部108の情報とを対応付けたテーブル(図5)であり、記憶部103に記憶されている。詳細については後述する。

30

【0017】

リモコン通信部106は後述のリモコン107が発信する赤外線信号を受信してこれを復調し、リモコン操作によって発生したコードを制御部104に渡す。本実施例では赤外線信号で通信する例をあげて説明するが、通信方法はこれに限らず、電波による通信や有線通信などの既存の通信方式を用いても構わない。

【0018】

リモコン107は、後述のリモコン入力部108からの入力を受け付け、これに応じてリモコン通信部106に赤外線信号を送信する。

40

【0019】

リモコン入力部108はボタン群やジョイスティック、スイッチ、タッチホイール等の入力装置から構成され、各種の指示をリモコン107に入力するための入力インタフェースとして機能する。

【0020】

入力部情報109は、入力部の画像や色に関する情報(図6、図7)であり、記憶部103に記憶されている。詳細については後述する。

【0021】

次に、図5に示す対応テーブル501について説明する。対応テーブル501は、ユーザ・インタフェースの状態毎に、操作可能なキーとフォーカス移動可能な項目とを対応付

50

けたテーブルである。ここで、ユーザ・インタフェースには状態と各状態名があらかじめ定義されており、キーや項目にはそれぞれ固有のIDが割り振られている。

【0022】

501において、「状態」欄には状態名、「フォーカス項目」欄には前記状態におけるフォーカスの合っている項目のID、「キーID」欄にはリモコンのキーのIDが記されている。「フォーカス移動可能項目1」欄には、「キーID」欄のキーを操作した場合にフォーカスの合う項目のIDが記されている。そしてそれ以降、現在フォーカスが合っている項目からの移動回数が小さい順に「フォーカス移動可能項目2」欄、「フォーカス移動可能項目3」欄に、該当する項目のIDが記されている。なお、「フォーカス移動項目2」以降は、1つの欄に複数該当する項目があり得る。

10

【0023】

図6に示す画像テーブル601は、リモコンの各キーと、そのキーの画像とを対応付けるテーブルであり、記憶部103に記憶されている。「キーID」欄にはキーのIDが、「イメージファイル」欄にはキーを示す画像ファイルのURIが記されている。

【0024】

同様に、図7に示す色テーブル701は、リモコンの各キーと、そのキーの色とを対応付けるテーブルであり、記憶部103に記憶されている。「キーID」欄にはキーのIDが、「色」欄にはキーの色が記されている。

【0025】

続いて、本発明の実施例1における情報処理装置の動作例を図2に示す。図2において、201はディスプレイに表示された画面、202はリモコンである。リモコン202には、フォーカスを上下左右方向に移動させるための十字キーが備えられている。画面201において、ユーザがフォーカスを「ファイルの場所」という項目に移動させようとした場合、現在の状態においてどのキーを操作すればフォーカスがそこに移動する（あるいは近づく）のか、画面201から直感的に把握することは難しい。

20

【0026】

ここで、画面201に本発明を適用し、キーを表す画像を画面201上に併せて示したものを画面203に示す。画面203では、現在の状態において「上下左右」各キーを押した場合のフォーカス移動先項目上に、各キーの画像が併せて表示されている。「ファイルの場所」という項目には「上」キーを表す画像が併せて表示されており、これにより、ユーザは「ファイルの場所」という項目にフォーカスを移動させるためには「上」キーを押せばよいことが直感的に把握できる。

30

【0027】

フォーカス移動させたときの動作例を図3に示す。図3の301は対応テーブル（図5：501）における「状態3」のときの画面である。画面301では、項目ID__IMAGE3にフォーカスが合っている。そして、項目ID__PULLDOWN2上には「上」キーの画像が、項目ID__BUTTON1上には「下」キーの画像が、項目ID__IMAGE2上には「左」キーの画像が、項目ID__IMAGE4上には「右」キーの画像が、それぞれ併せて表示されている。

【0028】

「状態3」において「右」キーを押すと、対応テーブル501における「状態4」に状態遷移し、フォーカスが項目ID__IMAGE4に合い、上記と同様、キーの画像が併せて表示される（図3：302）。

40

【0029】

「状態4」において「上」キーを押すと、対応テーブル501における「状態20」に状態遷移し、フォーカスが項目ID__PULLDOWN2に合い、上記と同様、キーの画像が併せて表示される（図3：303）。

【0030】

次に、本発明の実施例1における情報処理装置の動作について、図8のフローチャートを参照して説明する。該フローチャートを実行するためのプログラムは、記憶部108に

50

記憶され、制御部 104 の制御のもと実行される。

【0031】

フォーカス移動のイベントを検出すると(ステップ S801 にて YES)、フォーカスを移動することによりユーザ・インタフェースの状態が遷移する(ステップ S802)。状態遷移後、対応テーブル 501 (図 5) を参照して現状態におけるフォーカス移動可能項目(「フォーカス移動可能項目 1」)を取得し、画像テーブル 601 (図 6) を参照して各キーの画像情報を取得する(ステップ S803)。続いて、画面上の各フォーカス移動可能項目上に対応するキー画像を併せて表示する(ステップ S804)。表示については既存の画像処理技術を利用する。キー画像は透明度を高くして、項目がキー画像で隠れないように工夫することも可能である。

10

【0032】

尚、上記フォーカス移動可能項目は、「フォーカス移動可能項目 1」に限らず、「フォーカス移動可能項目 2」、「フォーカス移動可能項目 3」、・・・の任意の項目を取得して表示してもよい。全項目取得した場合は、図 10 の 1001 のように全てのフォーカス移動可能項目上にキー画像が表示されることになり、ユーザはフォーカスを移動させたい項目に表示されているキーを操作すればよい。

【0033】

また、図 10 の 1002 のように、「フォーカス移動可能項目 1」と「フォーカス移動可能項目 2」以降のキー画像の大きさを変えることにより、操作後にフォーカスが「合う」「近づく」の違いを明示的に示すことも可能である。この場合、同一の画像を用いて拡大・縮小することにより表示してもよいし、大きさの異なる画像ファイルを別に用意してもよい。なお、「フォーカス移動可能項目 2」以降、段階的に大きさを変えてもよい。

20

【0034】

以上のように、実施例 1 によれば、項目にフォーカス移動用のキー画像が併せて表示されるので、ユーザは所望の項目にフォーカスを移動させるためにどのキーを操作すればよいかを直感的に把握でき、操作性が向上する。

【実施例 2】

【0035】

続いて、本発明の実施例 2 について説明する。実施例 1 では、リモコンのキー画像を項目上に併せて表示する例を示した。実施例 2 では、リモコンのキーの色を表示する例を示す。

30

【0036】

本実施例における情報処理装置の動作例を図 4 に示す。図 4 において、201 はディスプレイに表示された画面(図 2 の 201 と同じ)、401 はリモコンである。リモコン 401 には、フォーカスを上下左右方向に移動させるための十字キーが備えられており、上下左右のキーの色は、それぞれ異なる。

【0037】

実施例 1 でも述べたように、画面 201 では直感的な操作が難しいため、画面 201 に本発明を適用し、リモコンの各キーを押した場合のフォーカス移動先項目の周りに、キーの色(図 7 の色テーブル 701 から取得できる)の枠を表示した例を画面 402 に示す。「ファイルの場所」という項目の周りには赤い枠が表示されており、これにより、「ファイルの場所」という項目にフォーカスを移動させるためには赤色のキーを押せばよいことが直感的に把握できる。画面 402 では、対応するキーの色の枠を項目の周りに表示した例を示したが、項目自体をキーの色で表示してもよい。

40

【0038】

本発明の実施例 2 における情報処理装置の動作について、図 9 のフローチャートを参照して説明する。該フローチャートを実行するためのプログラムは、記憶部 108 に記憶され、制御部 104 の制御のもと実行される。

【0039】

図 9 におけるステップ S801、ステップ S802 は、実施例 1 で示した図 8 のステッ

50

ブ S 8 0 1、ステップ S 8 0 2 と同一なので、ここでは、ステップ S 9 0 1、ステップ S 9 0 2 についてのみ説明する。

【 0 0 4 0 】

ステップ S 9 0 1 では、状態遷移後（ステップ S 8 0 2 の後）、対応テーブル 5 0 1（図 5）を参照して現状態におけるフォーカス移動可能項目（「フォーカス移動可能項目 1」）を取得し、色テーブル 7 0 1（図 7）を参照して各キーを表す色情報を取得する。続いて、画面上の各フォーカス移動可能項目の周りに色枠を表示する（ステップ S 9 0 2）。ここで、色枠の表示については既存の技術を利用する（HTML 等でもスタイルシートで枠線の種類を指定することにより太さや色、スタイルを変えることができ、このような技術は世の中で多く使われている）。

10

【 0 0 4 1 】

尚、実施例 1 と同様に、上記フォーカス移動可能項目は、「フォーカス移動可能項目 1」に限らず、「フォーカス移動可能項目 2」、「フォーカス移動可能項目 3」、・・・の任意の項目を取得して表示してもよい。全項目を取得した場合、図 1 1 に示す図 1 1 0 1 のように全てのフォーカス移動可能項目の周りに十字キーの色に対応した色枠が表示されることになり、ユーザはフォーカスを移動させたい項目に表示されている色を頼りにキーを操作すればよい。

【 0 0 4 2 】

また 1 1 0 2 のように、「フォーカス移動可能項目 1」と「フォーカス移動可能項目 2」以降の枠線種（実線、点線等）や枠線の太さ、色の濃度を変えたりすることにより、操作後にフォーカスが「合う」「近づく」の違いを明示的に示すことも可能である。

20

【 0 0 4 3 】

以上のように、実施例 2 によれば、項目にフォーカス移動用のキーの色が表示されているので、ユーザは所望の項目にフォーカスを移動させるためにどの色のキーを操作すればよいかを直感的に把握でき、操作性が向上する。

【 0 0 4 4 】

また、実施例 1、実施例 2 ではリモコンのキーを例に動作を説明したが、本発明はリモコンに限らず、装置自体の入力部（図 1：1 0 1）の情報を表示してもよい。

【 0 0 4 5 】

なお本発明の目的は、前述の実施例の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体をシステムや装置に供給し、そのシステムや装置のコンピュータ（又は CPU や MPU）がプログラムコードを読み出し実行することによっても達成される。この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述の実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

30

【 0 0 4 6 】

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フレキシブルディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROM などを用いることができる。また、LAN（ローカル・エリア・ネットワーク）や WAN（ワイド・エリア・ネットワーク）等のコンピュータネットワークを、プログラムコードを供給するために用いることができる。

40

【 0 0 4 7 】

またコンピュータが読み出したプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働している OS（オペレーティングシステム）等が実際の処理の一部又は全部を行い、該処理によって前述の実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【 0 0 4 8 】

さらに、次のような場合も考えられる。まず、記憶媒体から読み出されたプログラムコードを、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込む。そしてそのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わる CPU などが実際の処理の一部又は全部を行

50

い、その処理によって前述の実施形態の機能を実現する。

【0049】

本発明において、複数の入力部を有する入力手段とは、例えば実施例1、2のリモコン107や本体入力部101であり、複数の入力部とは、例えばリモコンのボタンや十字キーである。また入力部と項目を対応付ける対応情報とは、例えば図5に示す対応テーブル501である。図5では、例えばフォーカス項目(1)には、入力部KEY_UPと項目ID_PULLDOWN2の対応付けが関連付けられている。また、入力部をあらわす入力部情報とは、例えば図6の画像テーブル601に示す画像のことであり、図6では、入力部KEY_UPをあらわすupkey.bmpが入力部情報である。

【図面の簡単な説明】

10

【0050】

【図1】本発明の実施例1における情報処理装置の基本構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の実施例1に係る情報処理装置の動作の一例を示す図である。

【図3】本発明の実施例1に係る情報処理装置の動作の一例を示す図である。

【図4】本発明の実施例2に係る情報処理装置の動作の一例を示す図である。

【図5】本発明の実施例1に係る情報処理装置における操作キーとフォーカス移動可能項目との対応関係を記したテーブルの一例を示す図である。

【図6】本発明の実施例1に係る情報処理装置のキー情報(キーを表す画像ファイル)を示すテーブルの一例を示す図である。

【図7】本発明の実施例2に係る情報処理装置のキー情報(キーを表す色)を示すテーブルの一例を示す図である。

20

【図8】本発明の実施例1に係る情報処理装置の動作手順を示すフローチャートである。

【図9】本発明の実施例2に係る情報処理装置の動作手順を示すフローチャートである。

【図10】本発明の実施例1に係る情報処理装置の動作の一例を示す図である。

【図11】本発明の実施例2に係る情報処理装置の動作の一例を示す図である。

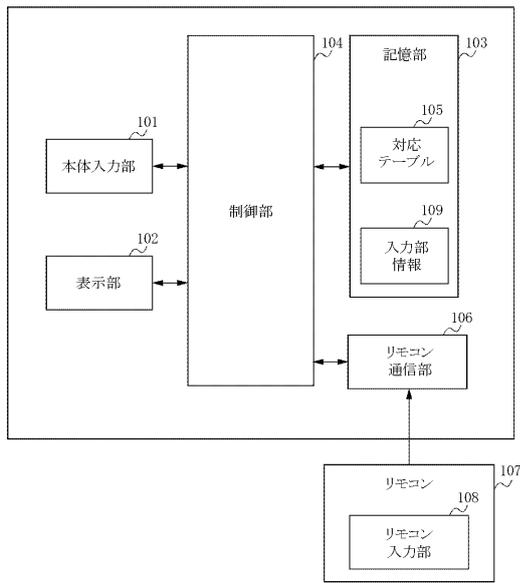
【符号の説明】

【0051】

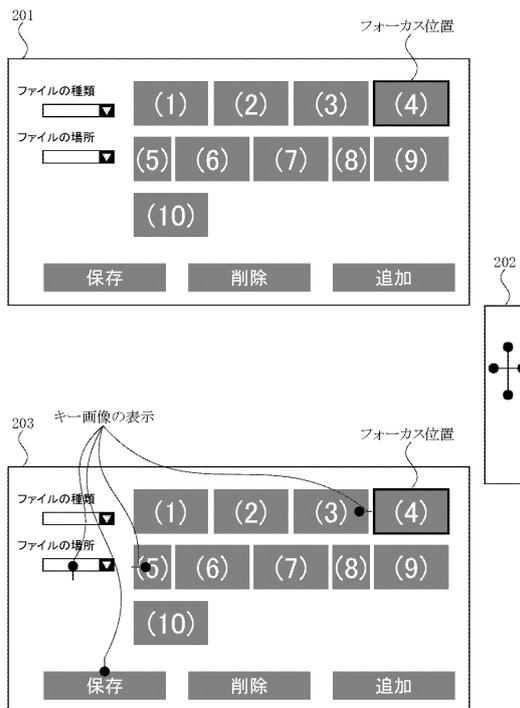
- 101 本体入力部
- 102 表示部
- 103 記憶部
- 104 制御部
- 105 対応テーブル
- 106 リモコン通信部
- 107 リモコン
- 108 リモコン入力部
- 109 入力部情報

30

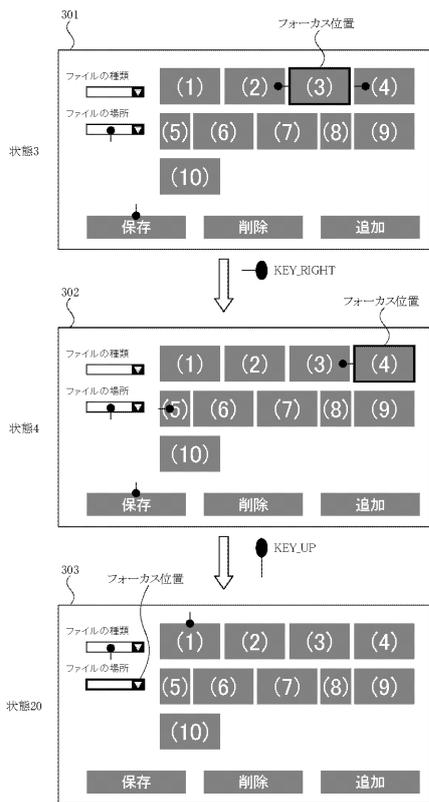
【 図 1 】



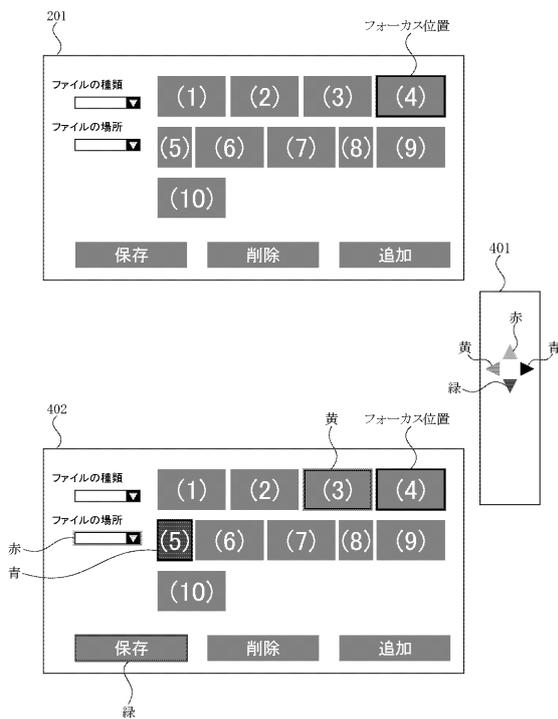
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】

501

状態	フォーカス項目	キーID	フォーカス移動可能項目1	フォーカス移動可能項目2	フォーカス移動可能項目3	...
状態1 (1)	[1]	KEY_UP	ID_PULLDOWN2			...
		KEY_DOWN	ID_BUTTON1			...
		KEY_LEFT	ID_IMAGE10	ID_IMAGE9	ID_IMAGES8	...
		KEY_RIGHT	ID_IMAGE2	ID_IMAGE3	ID_IMAGE4	...
状態2 (2)	[2]	KEY_UP	ID_PULLDOWN2			...
		KEY_DOWN	ID_BUTTON1			...
		KEY_LEFT	ID_IMAGE1	ID_IMAGE10	ID_IMAGES9	...
		KEY_RIGHT	ID_IMAGE3	ID_IMAGE4	ID_IMAGES5	...
状態3 (3)	[3]	KEY_UP	ID_PULLDOWN2			...
		KEY_DOWN	ID_BUTTON1			...
		KEY_LEFT	ID_IMAGE2	ID_IMAGE1	ID_IMAGE10	...
		KEY_RIGHT	ID_IMAGE4	ID_IMAGE5	ID_IMAGE6	...
状態4 (4)	[4]	KEY_UP	ID_PULLDOWN2			...
		KEY_DOWN	ID_BUTTON1			...
		KEY_LEFT	ID_IMAGE3	ID_IMAGE2	ID_IMAGE1	...
		KEY_RIGHT	ID_IMAGE5	ID_IMAGE6	ID_IMAGE7	...
...
状態20	[20]	KEY_UP	ID_PULLDOWN1			...
		KEY_DOWN	ID_IMAGE1			...
		KEY_LEFT				...
		KEY_RIGHT				...
...

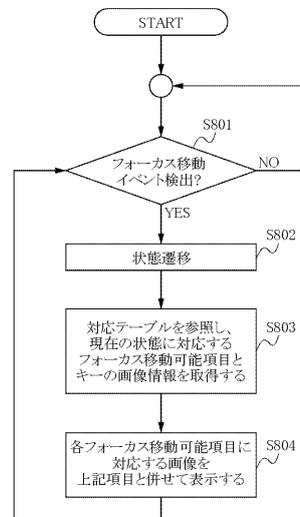
【 図 6 】

キーID	イメージファイル
KEY_UP	upkey.bmp ↑
KEY_DOWN	downkey.bmp ↓
KEY_LEFT	leftkey.bmp ←
KEY_RIGHT	rightkey.bmp →
...	...

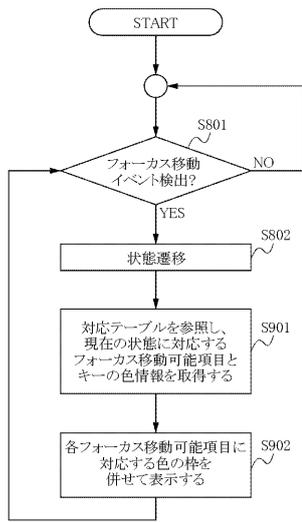
【 図 7 】

キーID	色
KEY_RED	RGB(255, 0, 0)
KEY_GREEN	RGB(0, 255, 0)
KEY_BLUE	RGB(0, 0, 255)
KEY_YELLOW	RGB(0, 255, 255)

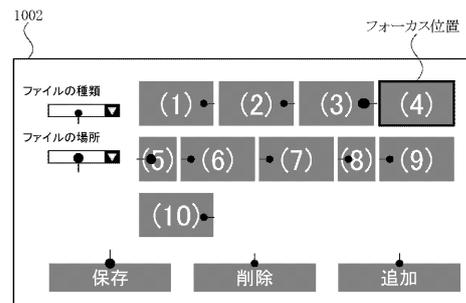
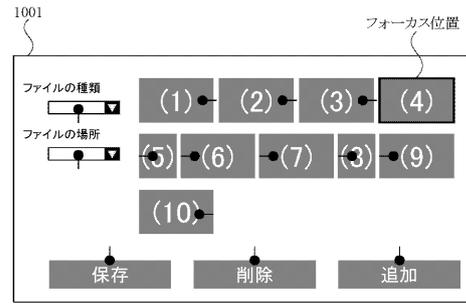
【 図 8 】



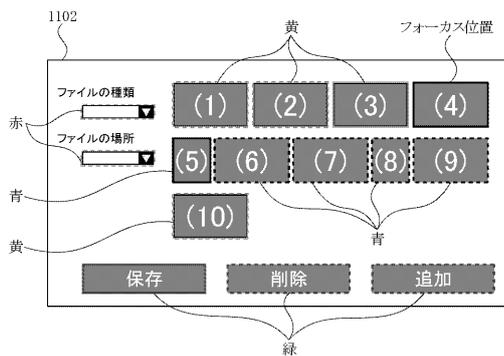
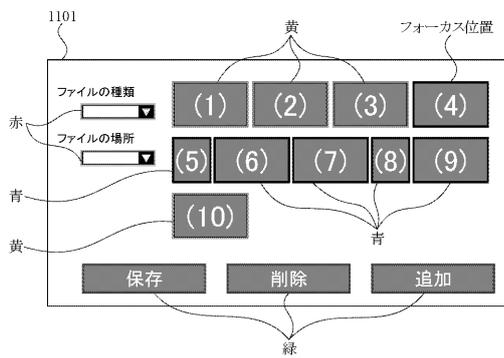
【 図 9 】



【 図 10 】



【 図 11 】



フロントページの続き

(72)発明者 深田 俊明

東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社内

Fターム(参考) 5E501 AA02 AB06 AC14 AC37 BA05 CB02 CB04 CB05 CB07 EA03

FA02 FB28 FB43